

活用形の基本と六つの活用形

活用とは？

問1 問いに答えなさい。

「読む」は後ろに続く語に合わせて「読まない」「読みます」のように形が変わります。このように語の形が変わることを何といいますか。

答え：活用

補足：語が文中での使われ方に応じて形を変えることを「活用」といいます。

六つの活用形

問2 六つすべて答えなさい。

動詞の六つの活用形を、未然形から順に答えなさい。

答え：未然形、連用形、終止形、連体形、假定形、命令形

補足：六つの活用形は「未然形→連用形→終止形→連体形→假定形→命令形」の順に整理します。

終止形と連体形

問3 それぞれの活用形を答えなさい。

①「鳥が空を飛ぶ。」の「飛ぶ」と②「空を飛ぶ鳥」の「飛ぶ」は、それぞれ何形ですか。

答え：① 終止形 ② 連体形

補足：文を言い切る「飛ぶ」は終止形、名詞「鳥」に続く「飛ぶ」は連体形です。形が同じでも働きで判断します。

假定形と命令形

問4 それぞれの活用形を答えなさい。

①「ていねいに書けば読める。」の「書け」と②「ここに名前を書け。」の「書け」は、それぞれ何形ですか。

答え：① 假定形 ② 命令形

補足：「ば」に続く「書け」は假定形、命令を表して言い切る「書け」は命令形です。